

10 精神症状

労働者

抑うつ気分	73.3% (74例)
希死念慮	70.3% (71例)
不安	42.6% (43例)
不眠	36.6% (37例)

非労働者

抑うつ気分	53.5% (54例)
希死念慮	57.4% (58例)
不安	40.6% (41例)
不眠	35.6% (36例)

労働者と非労働者の精神症状で差異がある症状は非労働者で19.8% (20例)に被害関係妄想がみられたことと労働者では30.7% (31例)に食欲不振がみられたことである。

11 希死念慮の存在の時期

希死念慮がいつから存在していたかということであるが、労働者では回答した事例全体の41.8% (38例)が数週以内に出現と回答、非労働者では30.8% (28例)がやはり数週以内に出現と回答していた。

12 自殺企図前に本人が精神的に不調を感じた時期

	労働者		非労働者	
	人数	割合	人数	割合
数時間前	16	16.5%	15	16.0%
数日前	19	19.6%	13	13.8%
数週前	21	21.6%	6	6.4%
1ヶ月前	6	6.2%	8	8.5%
数ヶ月前	20	20.6%	17	18.1%
不明	15	15.5%	35	37.2%

(不調に感じた内容)

労働者：食欲低下

気分の浮き沈みがはげしい

希死念慮

絶望感と抑うつ

不眠、不安、息苦しさ、不眠の出現

過喚気多発

1.3 本人が精神的に不調を感じたことに関する相談の有無

	労働者		非労働者	
	件数	割合	件数	割合
家族	31	41.3%	25	26.9%
上司・同僚	2	2.7%	0	0.0%
いのちの電話	0	0.0%	0	0.0%
医療関係者	13	17.3%	16	17.2%
その他	7	9.3%	12	12.9%
不明	18	24.0%	28	30.1%

1.4 労働者に対する自殺企図前の介入

自殺企図時点以前から、精神症状などに関して、職場関係者や産業保健スタッフによる何らかの介入があったかという質問に関しては、「あった」と回答された事例は7.9% (6例/76例)のみであり、「なかった」との回答が81.6% (62例)であった。

1.5 自殺企図の兆候

労働者の自殺の兆候について誰かが気づいていたか否かという質問に関しては、17% (13例)が気づいていたと回答されたが、調査対象の6~7割は自殺企図の兆候に気づいていなかった。

「気づいていた」と回答した事例(13例)に関して、

(誰が)

家族(10例)

上司(1例)

(どのようにして気づいたか)

本人からの訴え(8例)

異常行動(2例)

自殺をほのめかす言動(3例)

(そのときの対応)

保健師へ相談していた(1例)

精神科受診を説得中であった(3例)

精神科受診をさせた(2例)

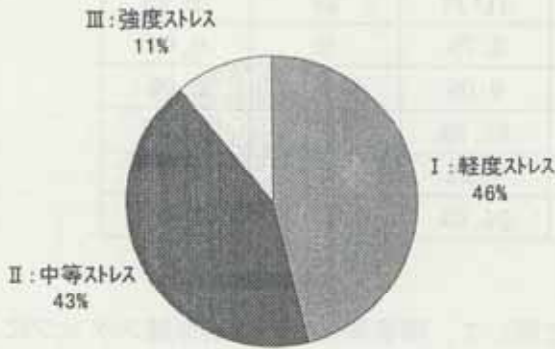
重大と考えていなかった(1例)

励ました(2例)

その他(4例)



ストレスの程度(自殺動機が職場問題の場合)



I: 軽度ストレス	30例
顧客・同僚・部下とのトラブル	4
勤務形態の変化	10
身分の昇進・昇格	4
部下の減少	1
理解人の移動	2
上司が変わった	2
同僚の昇進・昇格	0
II: 中等ストレス	28例
悲惨な事故や災害の体験	1
仕事の失敗	9
責任発生	7
拘束時間長時間化	2
上司とのトラブル	7
病気やケガ	2
III: 強度ストレス	7例
大きな病気やケガ	2
大きな交通事故・労災	1
不本意な退職・リストラ	4

図1 自殺の動機(職場問題)について

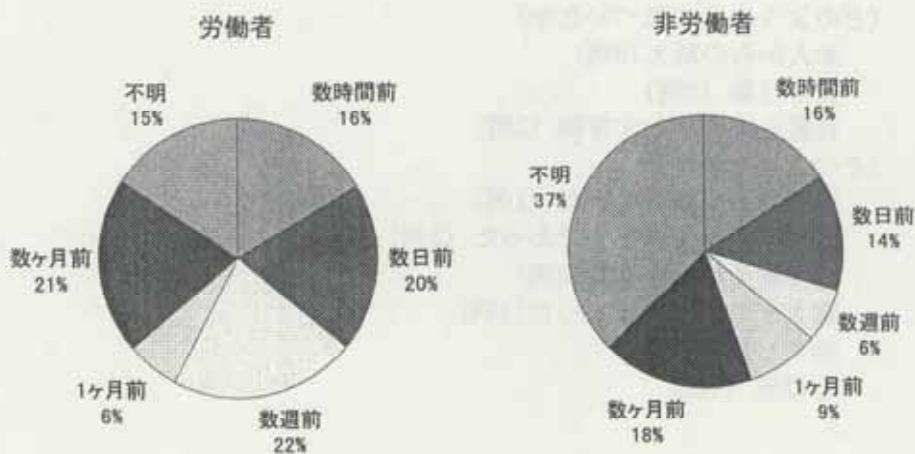


図2 自殺企図前に本人が精神的に不調を感じた時期